

「はい、配送センターです」

「あの、不在連絡票が入っていたんですけど」

「かしこまりました。不在連絡票がはいっていたのはいつですか？」

「三十日です」

「三十日ですね。それでは、右上のほうに書かれてあります八桁の番号をお願いします」

「8・1・3・7・2・4・3・8です」

「お名前をお願いしますか？」

「鈴木博之です」

「鈴木博之様ですね」

「お届けはいつがよろしいでしょうか？」

「二日の水曜日にお願いたいんですけど・・・」

「かしこまりました」

「時間指定はできますか？」

「申し訳ありません。時間指定はできないんです。午前・午後・夜間の指定となりますが」

「午後ですと、何時から何時までの配達になりますか？」

「三時～七時迄の間になります」

「では、午後でお願いします」

「かしこまりました。それでは二日の水曜日、午後三時～七時の間にお届けいたします。

ありがとうございます」

「よろしくお願いします」

電話を切つて数分後、鈴木は届け先を変更してもらう為、もう一度配送センターに電話を入れた。

「はい、配送センターです」

「すみません。たった今電話をした鈴木といいますが、届け先を変更してもらうことはできますか？」

「ご希望のお届け先ご住所はどちらになりますか？」

「渋谷区です」

「はい、大丈夫です。それではまず、お名前とお客様のご住所をお願いします」

「鈴木博之です。住所は東京都渋谷区東八―八―三十」

「かしこまりました。ご希望のお届け先ご住所とお電話番号をお願いします」

「東京都渋谷区渋谷三―八 平井ビル三階です。電話は〇三―三八―八―一五〇です」

「こちらは会社になりますか？」

「はい、そうです」

「それでは、会社名と部署名もお願いします」

「株式会社システムネットワークの総務部です」

「はい。それでは、確認させていただきます。ご住所が東京都渋谷区渋谷三―八 平井ビル三階、電話番号は〇三―三八―八―一五〇ですね。会社名は株式会社システムネットワーク、部署名は総務部ですね。それでは鈴木様、二日、水曜日の午後三時～七時の間にお届け致します。ありがとうございます」鈴木は、

「よろしくお願いします」と言つて電話を切った。